

## 記事内容

- ☆男女平等参画推進担当者会議開催
- ☆男女平等参画推進委員会・女性委員会・青年委員会の合同会議  
／民主党男女共同参画委員会との懇談会  
／女性のためのSTEP UP セミナー
- ☆埼玉大学寄付講座
- ☆ネット21運動「山の学校親子夏休み体験プラン2010」
- ☆大会公示／青年委員会コースラリ／国勢調査
- ☆さいたま輝き荻野吟子賞募集／もうすぐ選挙／10月行動予定
- ☆あけぼのビル

## “男性も女性も誰もが出番と居場所がある”

～エッジのきいた第3次男女共同参画基本計画～

実践女子大学 人間社会学部  
鹿嶋 敬教授

8月23日（月）13時30分より、あけぼのビル501会議室において「2010男女平等参画推進担当者会議」を39名（連合埼玉構成組織、地域協議会、男女平等参画推進委員会、女性委員会）が参加し開催した。

開会にあたり連合埼玉男女平等参画推進委員会内田三四郎委員長より、「本年度は第22回参議院選挙の関係で少し後

ろにずらして男女平等参画推進担当者会議を開催した。9月3日には連合埼玉男女平等参画推進委員会・女性委員会・青年委員会の合同会議と民主党埼玉県連男女共同参画委員会との懇談会を予定している。また、男女平等参画推進委員会の課題として、組合活動に女性組合員の参加を増やし、執行部の中に女性を一人でも多く登用しながら、女性比率を高めるという課題に挑戦している。しかしながら、固定的性別役割分担意識がまだまだ根強く残っており、なかなか進まない。本日の男女平等参画推進担当者会議を受けて、それぞれの構成組織・単組の活動の中での論議テーマとして欲しい」と述べた。

連合埼玉男女平等参画推進委員会  
内田委員長（副会長）

次に連合埼玉・第3次男女平等参画推進行動計画を田尻富子特別執行委員より説明し、昨年度の取り組みである男女平等参画に関する実体調査では結果として、男女平等参画が進んでいない実態と推進のためには構成組織と単組の協力が重要であることを報告した。

講演では、実践女子大学人間社会学部の鹿嶋敬教授から、内閣府「第3次男女共同参画基本計画」について、とりまとめに関わった立場から核心をついた話がされた。私たちが目指す男女共同参画社会とは、固定的性別役割分担意識をなくした男女平等な社会であり、そこでは“男性も女性も誰もが出番と居場所がある”と基本的考えに盛り込まれている。また、今回の第3次基本計画の特徴であるエッジをきかせたところとして、①実効性あるポジティブアクション（積極的改善措置）の推進。②世帯単位から個人単位への制度・慣行の移行。③男女共同参画の視点をあらゆる施策に反映させるための手法の検討。④雇用問題の解決を進め、セーフティネットを構築。⑤男性、子どもにとっての男女共同参画、地域における男女共同参画の推進。⑥国際的な概念や考え方の重視（※選択議定書の早期締結に向け、「真剣に」検討を進める等）。などの内容が解説された。最後に、第3次基本計画を進めていくには議論が必要であり、人ごとではなく、建前の議論ではなく、意識した議論をして欲しい。この問題を解決することは将来への投資だと考えて欲しいと講演を締めくくった。



会場の様子

## 男女平等参画推進委員会・女性委員会・青年委員会の合同会議

～少子・高齢化の進展と人口減少社会の現状について～

9月3日(金)さいたま市あけぼのビル502会議室において、13時30分より男女平等参画推進委員会・女性委員会・青年委員会の合同会議を開催した。

テーマである少子・高齢化の進展と人口減少社会の現状や課題について、人口・家族、雇用・労働の分野を切り口として、現在、企業及び職場で取り組んでいることや、組合の活動を通して実施していることなどを取りあげて論議した。



連合埼玉  
男女平等参画推進委員会  
内田委員長(副会長)

## 民主党男女共同参画委員会との懇談会

同日、同会議室で15時30分より、連合埼玉と民主党埼玉県連男女共同参画委員会との懇談会を開催した。

開会にあたり連合埼玉を代表し、内田三四郎副会長より挨拶がされ、続いて民主党埼玉県連男女共同参画委員会を代表し、行田邦子参議院議員より挨拶をいただいた。

懇談会では、テーマである少子・高齢化の進展と人口減少社会の現状や課題について、先ず、それぞれの活動や取り組みを報告した。連合埼玉では連合本部や連合埼玉での取り組みや政策制度要請について報告し、民主党埼玉県連では、県連としての取り組みと県議会や市町村議会での取り組みを報告した。



民主党埼玉県連  
行田邦子参議院議員

次に、埼玉労働局雇用均等室 長森恵室長から「男女平等度指標による埼玉県の状況」について解説をいただいた。これは7月9日朝日新聞に「埼玉は男女不平等か」と題して東北大大学院・吉田浩教授のチームが発表した「都道府県の男女平等度指数」の掲載記事で、トップが鳥取県で最下位が埼玉県となっている。このデータの埼玉県の状況を雇用均等室独自で分析したものである。吉田教授のチームが指標に取りあげている項目が、男女平等度指数を求めるものとして適正であるのか検討する必要があるとの意見もあり、全体を通して活発な意見が交換され有意義な懇談会となった。

## 男女共同参画の新たな視点!

～女性のためのSTEP UPセミナーを開催～

9月10日(金)～11日(土)独立行政法人 国立女性教育会館 研修棟研修室301において、「女性のためのSTEP UPセミナー」に15名が参加し開催した。

開会にあたり連合埼玉女性委員会横山薫委員長より、「今回の宿泊でのセミナー開催は、初めての試みである。プログラムについては、国立女性教育会館の学習プログラムをセミナー用に調整したもので施設見学も含まれ、充実した内容となっている。十分に学び、体験して欲しい」と述べた。

次に連合埼玉を代表し佐藤道明事務局長より、「国の男女共同参画の拠点である国立女性教育会館で開催することで、参加者の皆さんにNWEC※1を体感し理解していただき、今後の活動に生かして欲しい」と挨拶をした。続いて、国立女性教育会館を代表し神田道子理事長より、「この会館ができ30年が経った。女性の教育をはじめ、リーダーの養成、男女共同参画を推進しているが、今後は男性にも大いに関わっていただきたい」との挨拶をいただいた。

※1.NWEC(ヌエック)=独立行政法人 国立女性教育会館

### 一日目

NWECの小林千枝子調整主幹より、プログラムオリエンテーションを受け2日間のスケジュールを確認し把握した。

次に、「キャリア形成における社会参画の画期性(参加から参画へ)ー男女共同参画の視点ー」について、神田道子理事長より講義いただいた。印象的だったのは、いま女性は力をつけて、力を持ち行動する時代であり、相互に尊重することが大切であるとの言葉である。女性はもっと自信を持って行動しなさいと背中を押されたような気がした。

施設見学では、女性教育情報センター・女性アーカイブセンターを見学。

続いて「情報を利用した実態把握」ーデータで読む男女共同参画ー(グループワーク)を研究国際室渡辺美穂研究員による実習が行われた。情報収集の仕方、データの見方・分析、データベースの構築などを学習した。

一日目の最後に「社会活動キャリアとは」について、研究国際室中野洋恵室長より講義を受けた。職業キャリアだけではなくNPOやボランティア活動などの地域の課題解決のための活動を「社会活動キャリア」ととらえる考え方であり、求められる背景等についても学習した。

二日目

「問題解決をめざし、社会をつくっていく個人のキャリアを考える  
—社会活動キャリアの事例に学ぶ—(グループワーク)について、小林  
千枝子調整主幹より講義と実習を受けた。

講義では、NPO法人「ラピチュア創造研究所」理事長竹本加良子さんの社会  
活動キャリアの事例を、先ず、個人で分析・整理し、次にグループで話し合い、

ワークシートを使って分析を行い模造紙にまとめグループ発表を行った。分  
析し話し合う中で、社会活動キャリアの中の広さを実感した。

二日間を通して、急ぎ足ではあったが、男女共同参画をキャリアという新た  
な視点でとらえることを学んだ有意義なセミナーとなった。



全体の様子



NVEC  
神田道子理事長



施設を見学

埼玉大学寄付講座「働くということと労働組合」

『労働を中心とした福祉型社会』の実現に向けて

2010年度の埼玉大学連合寄付講座は「働くということと労働  
組合」を大きなテーマに、雇用、ワークルール、労働時間、賃金、  
非正規問題などに関する働く現場・地域での取り組み、地域レベ  
ル・中央レベルにおける政策実現活動、社会的課題への取り組み  
について、幅広い内容を取り上げ、働くことと労働組合の役割  
について14回の講義を通して考えてきた。

7月28日開催のシンポジウムでは、これまでの講義のまとめと  
して、埼玉大学経済学部禹宗杭教授をコーディネーターに、連合  
本部南雲事務局長と連合埼玉宮本会長をパネラーとして、  
「ディーセントワークおよび連合がめざす社会(労働を中心とし  
た福祉型社会)」の実現に向けて、ナショナルセンター、ローカル  
センターそれぞれが取り組むべき課題とは何か、総合的な社会・  
雇用政策を、地域そして社会全体でどのようにつくっていくのか  
などについて話し合った。

南雲事務局長からは「連合がめざす労働を中心とした福祉型  
社会の具体的イメージ」や「民主党政権との関わり」などについ  
て、宮本会長からは「地域ミニマム運動」「最低賃金の取り組み」  
「なんでも労働相談」「街頭行動」など地域において連合埼玉が  
取り組んでいる具体的な事例について紹介させていただいた。ディス  
カッションの合間に学生と質疑応答をいれながらの熱気ある  
講義となった。最後にパネラーそれぞれが、働くということにつ  
いて、これから社会人になる学生のみなさんへのメッセージを伝  
え、本講義を修了した。



連合本部 南雲事務局長



連合埼玉 宮本会長

【埼玉大学寄付講座プログラム】

日程	分類	講義テーマ	ゲストスピーカー
4/14	導入	連合寄付講座において埼玉大生に学んで欲しいこと 労働組合の役割と課題+質疑応答	岡部謙治(社)教育文化協合理事長【自治労】 岡部理事長と再教授の対談
4/21	働く現場	働く現場・地域での取り組み① 働く現場で、今、何が問われているのか?~連合の雇 用政策を掘り起こす~	黒野久茂 連合副事務局長【基幹労連】
4/28	働く現場・地域	働く現場・地域での取り組み② ツール労働協約	市川佳子 連合雇用法制対策局長【JAM】
5/12	働く現場・地域	働く現場・地域での取り組み③ 労働時間	鎌倉繁 情報労連政策局長
5/19	働く現場・地域	働く現場・地域での取り組み④ 賃金	勝尾文三 連合労働条件局長【U・I・D・N・C同盟】
5/26	働く現場・地域	働く現場・地域での取り組み⑤ ワークライフ バランス	横山真 連合埼玉女性委員会委員長【自治労】
6/2	働く現場・地域	働く現場・地域での取り組み⑥ 処遇とキャリア形成	富高裕子 電機連合中央執行委員長
6/9	働く現場・地域	働く現場・地域での取り組み⑦ 非正規労働者への対応	小野寺義成 連合埼玉副会長・政策制度委員長【自動車総連】
6/16	政策実現活動	政策実現活動の取り組み① 国際労働運動とディーセントワーク	高木郁朗(社)教育文化協合理事
6/23	政策実現活動	政策実現活動の取り組み② 地域での活動	佐藤通明 連合埼玉事務局長【電力総連】
6/30	政策実現活動	政策実現活動の取り組み③ 中央での活動	岡本直美 連合会長代行・NHK労連議長
7/7	社会的課題への取り組み	社会的課題への取り組み① 防災、防災活動を通しての地域社会への貢献	林道彦 連合組織拡大・組織対策局長【連合本部】
7/14	社会的課題への取り組み	社会的課題への取り組み② 平和、人権活動を通しての国際社会への貢献	山口洋子 連合副事務局長【フ・ビ・ス・流通連合】
7/21	まとめ	教員まとめ	馬 教授
7/28	まとめ	「働くということと労働組合」	南雲弘行 連合事務局長【電力総連】 宮本重雄 連合埼玉会長【電機連合】 馬 教授

# ネット21運動 夏休み親子自然体験inときがわ『山の学校』

～こんな近くに本物の自然がいっぱい!～

「ネットワークSAITAMA21運動」では、過疎化が進み森林や里山の荒廃が進む「ときがわ」の自然や文化を守り継承していくことを目的とし活動している、NPO法人「ときがわ山里文化研究所」と連携。夏休みも残すところあとわずかとなった8月21(土)、大自然に囲まれた「ときがわ」に集まった親子、総勢29名で『山の学校』が開催された。

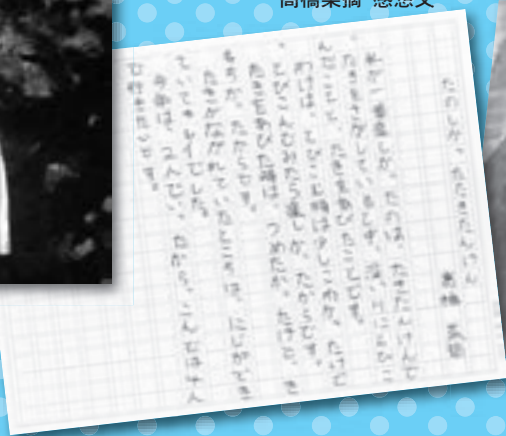
車を降りて川遊びの場所へ向かう山道。一度は荒れてしまったが見事に再生したお茶畑のわきを抜け、山の冷たい湧き水で喉をうるおす。やや険しい山道だが「昔この道は学校へ行くための通学路」と聞いてみんなびっくり。

川辺に着くなり水着に着替え、澄んだ水が流れる川へと進む子どもたち。夏とはいえ川の水は冷たい。「浅瀬の石の裏にサワガニがいるよ」と山里文化研究所のおじさんの一声に、子どもたちはみんな石をひっくり返しながらサワガニとりに夢中になった。小さな水槽の中にはカニやヤゴがいっぱい。「こんな近くなのに自然のままの姿が残っているんですね!」と感動しているお母さん。「山の学校」での体験は、子どもだけではなくお父さんお母さんたちにも「初めての体験」があったかもしれません。



高橋菜摘

高橋菜摘 感想文



お父さんもサワガニとりに注目!



清流を下る女の子とお父さん



川辺で鉄板焼きもしました



再生したお茶畑の前で説明を受ける





### 神庭 ファミリー

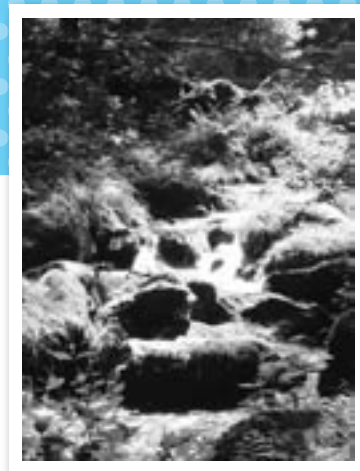
子どもが3歳になり、そろそろ子連れ外出も楽しめるようになったので「山の学校」に参加してみました。日頃外出といえば私の趣味で図書館か、パパの趣味で映画館かという超インドア家庭なので、普段できない経験させてあげられるかも?という気持ちからでした。

当日は、NPOの方の案内で道なき道を進み、丸太3本だけの橋を渡り、川の水(冷たくて気持ちいい!)で野菜や果物を冷やして食べるなど、自分だけではとてもできない経験ができました。最初は戸惑っていた子どもも次第に慣れ、川をのぼって行ったり大はしゃぎ。いつまでたっても川から出てこないのせっかくのバーベキューがあまり食べられなかったのが残念です(涙)。

川に着くまでは本当に道なき道で、大ミズに子どもは泣きだし、どこまで登るの~と思う上り坂を前に、子どもをなだめすかして抱っこしたりおんぶしたりして、なんとか歩かせました。小さな子どもと二人での参加でいろいろ大変でしたが、登りきって視界が開けた時に見た景色、川の水の冷たさ、きれいさ、本当になかなか経験できないことだったなと思います。これというも、歩いている時も、川遊びの時も、場所を熟知し、そばでサポートして下さった方々のおかげと思います。

なかなか個人では経験できない「山の学校」・・・また来年が楽しみです。

神庭響子・一歌(3才)



### 町田 ファミリー

夏休みに家族みんなで、ときがわ町の川へバーベキューをやりに行きに来ました。着いた時は暑かったけど、下の川へ降りて行ったらひんやりして気持ち良かったです。一番楽しかったのは、河原でサワガニを取った事と、川をどんどん登って行って深くなっていく所に飛び込んで泳いだ事です。水がとても冷たくて寒くなったけど面白かったです。今度、友達と一緒に行ってみたいと思いました。そのあと、河原でバーベキューをしました。焼きとうもろこしとお肉がとてもおいしくて、たくさん食べておなかいっぱいになって、とても楽しい一日でした。また参加したいと思いました。

町田裕星(7才)



2010年9月7日  
日本労働組合総連合会  
埼玉県連合会  
会長 宮本 重雄

## 公 示

連合埼玉規約第29条にもとづき、第17回地方委員会を下記のとおり開催する。

### 記

- |         |  |
|---------|--|
| 1. 日 時  | 2010年11月18日(木)10:00～   |
| 2. 会 場  | 浦和ロイヤルパインズホテル 4階<br>さいたま市浦和区仲町2丁目5番1号<br>TEL 048-827-1111(代)             |
| 3. 主要議事 | (1)2011年度 活動計画(案)について<br>(2)2011年度 予算(案)について<br>(3)役員の一部交代について<br>(4)その他 |

以上

## ～ライフ・ワーク・バランス実現のために～ 青年委員会ユースラリー



小野塚議員

9月4日(土)13:30より5日(日)12:00までの1泊2日で、2010年度青年委員会ユースラリーが30名の青年層が集い開催した。

初日は伊奈町にある埼玉県県民活動総合センター(通称:けんかつ)の会議室にて「ライフ・ワーク・バランス」を課題に取り組んだ。基調講演は小野塚勝俊衆議院議員より、ドイツの生活スタイルなどを題材に、日本と他国との生活文化や国民性を比較しながら、ライフ・ワーク・バランスへの課題提起が行われた。参加者からは「日本固有の文化も大切。日本らしさを活かせる取り組みをすべき」との意見もあった。

グループワークでは、4班にわかれ、田並尚明県会議員、高柳俊哉さいたま市議、片野広隆川越市長、石川智明川越市長、黒澤三千夫熊谷市長にご協力をいただき、各班へアドバイザーとして一緒に議論に参加していただいた。

二日目は、上尾市にある榎本牧場において酪農を体験した。参加者からは、貴重な体験となった一方で、上尾に牧場?と驚きの声と「まだまだ埼玉県には知らないところがある」と言った感想もあった。

今後も青年委員会では県内で様々な体験と埼玉県をもっと知っていく活動を展開していきたい。



グループ討議



酪農体験

ニッポンの今を知り、未来をつくるための調査です。

# 10月1日は、国勢調査。

October 1 is the Population Census Day.

日本に住むすべての人・世帯を対象にした国勢調査。調査の結果は、児童福祉、高齢者の介護・医療、若者の雇用対策など、私たちの暮らしのさまざまな分野で役立てられる大切なデータとなります。10月1日のあなたの状況を調査票に記入し、ご提出ください。



国勢調査を装った「かたり調査」  
にご注意ください。

国勢調査員は「国勢調査員証」を身につけています。  
不審に思われた場合には、市区町村の国勢調査担当までお問い合わせください。

国勢調査コールセンター / TEL0570-01-2010 (ナビダイヤル) TEL03-6738-6677 (IP電話・PHSの場合)

設置期間:平成22年9月11日(土)～10月31日(日) 受付時間:午前8時～午後9時(土・日・祝日もご利用できます。)

※ナビダイヤルの通話料金は、一般の固定電話の場合、全国一律に市内通話料金でご利用いただけます。携帯電話の場合、所定の通話料金となります。

※IP電話・PHS用電話番号は、それぞれ所定の通話料金となります。



総務省・都道府県・市区町村 詳しくは [平成22年国勢調査] 検索  
http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/special/index.htm

キャンペーン  
サイト公開中!



国勢調査

平成22年10月1日

## 第6回“さいたま輝き荻野吟子賞”募集開始

埼玉県では「男女共同参画推進条例」が平成12年4月全国に先駆けて施行されており、男女共同参画を推進するために、「男女共同参画事業所表彰」が実施されていましたが、平成17年度より「さいたま輝き荻野吟子賞」に改称し対象を個人の部・団体の部・事業所の部の3部門に拡大し実施されています。

◆ 連合埼玉も男女平等参画を推進していることから、さいたま輝き荻野吟子賞募集について、各構成組織に、個人の部・団体の部・事業所の部の3部門に推薦協力の取り組みを展開しています。(今までに10事業所が表彰されています。)

### 対象者

【個人の部】 県内に在住(勤)または県出身で先駆的な功績などにより女性の社会参画の促進に貢献している人。

【団体の部】 県内に所在し、県内で5年以上公益的な実践活動を行い、その功績が顕著であり、それを通じて男女共同参画社会の推進に寄与している団体。

【事業所の部】 県内に所在し、男女が共同して参画することができる職場づくりに積極的に取り組んでいる事業所。

### 締め切り

2010年10月15日(金)

### 問い合わせ

推薦協力に対する問い合わせは連合埼玉・田尻まで。

TEL:048-834-2300



## = もうすぐ選挙 =

### 草加市議会議員選挙

◆ 新井 貞夫 (あらい さだお) 71才(民主党推薦・現10・連合埼玉推薦3回目)  
告示日:2010年10月3日(日) 投票日:2010年10月10日(日)

## 現在予定される10月の日程表です

10月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日 金		JAM北関東第12回定期大会(13:30~ 2日 11:00・みなかみ町)
2日 土	連合埼玉議員懇・総会(14:00~・あけぼのビル501)	UIゼンセン同盟埼玉県支部第9回定期総会・パーティー
3日 日		草加市議選告示
4日 月		
5日 火	四役・執行委員会(~6日・ヘリテージ・リゾート 熊谷市)	第6回地方連合会代表者会議
6日 水		第11回中央委員会
7日 木		
8日 金	最低賃金審議会(15:00~・埼玉労働局)	
9日 土		20周年朝霞・東入間地域協議会(東京ドームシティ)
10日 日		草加市議選投票
11日 月		
12日 火	シニア連合幹事会・国会見学(11:00~・国会)	
13日 水	【北部ブロック】地協ブロック連絡会 市長・町長政策懇談会(10:00~・埼玉グランドホテル本庄)	
14日 木	【東部ブロック】地協ブロック連絡会 市長・町長政策懇談会(10:00~・三高知)	
15日 金	ネット21第5回運営委員会(13:15~・連合埼玉会議室)	
16日 土		20周年北埼玉地域協議会・山梨(バスツアー)
17日 日		①20周年秩父地協(ディズニーリゾート(バスツアー)) ②20周年県央地協(ディズニーランド・ディズニーシー)
18日 月		①埼玉県電力総連第17回(リゾ)大会(越生ゴルフクラブ) ②埼交連第51回年次大会(13:30~・ときわ会館)
19日 火	【西部ブロック】地協ブロック連絡会 市長・町長政策懇談会(10:00~・川越東武ホテル)	
20日 水	【南部ブロック】地協ブロック連絡会 市長・町長政策懇談会(10:00~・あけぼのビル)	
21日 木		労福協第4回企画委員会(10:00~・ときわ会館)
22日 金		連合中央女性集会(~23日・東京ビックサイト会議棟7階国際会場)
23日 土		①JR総連埼玉県旅のプレゼント ②日教組平和集会(12:30~・ヘリテージ・リゾート)
24日 日		
25日 月		電機連合埼玉地協結成50周年記念第17回チャリティゴルフ大会(東松山カントリークラブ)
26日 火	第2回メンタルヘルスセミナー(10:00~16:00・ときわ会館)	労福協第56回理事会(10:00~・ときわ会館)
27日 水		
28日 木		
29日 金	政策制度要請県部局との話し合い(13:30~・自治会館)	
30日 土		
31日 日		20周年川越・西入間地域協議会・山梨(バスツアー)

# あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

## ◇「生活保護受給者チャレンジ支援事業」がスタート

前号で、県が9月1日にスタートした「生活保護受給者チャレンジ支援事業」についてふれ、生活保護受給者の自立支援の必要性や事業に対する期待について記述した。本事業は、厳しい雇用情勢を反映して、生活保護受給者が急増している中で、埼玉県が生活保護受給者一人一人の可能性を引き出し、自立に向けた支援を強力に進めるために、次の3つの事業を行う。

1つは、職業訓練支援員が主に20歳代～40歳代の保護受給者の職歴や適性に応じて、介護やボイラー技士等の資格や技術を取得できる職業訓練の受講を支援する「職業訓練支援員事業」。

2つは、住宅ソーシャルワーカーが、一時的な住まいの場である無料低額宿泊所に入所している保護受給者の年齢や心身の状況に応じて、社会福祉施設や民間アパートへの入居を支援する「住宅ソーシャルワーカー事業」。

3つは、教育支援員が、保護受給世帯の中学3年生とその親の相談に対応するとともに、高校進学に必要な基礎学力の向上を図るため、県内大学との連携により学生ボランティアを活用した学習教室を開設し、高校入学まで支援する「教育支援員事業」である。

## ◇時代のキーワード、「格差」から「貧困」へ

日本社会における時代のキーワードとして、その1つに「格差」が上げられる。連合においても「STOP!THE格差社会キャンペーン」を強力に進めてきたが、世界同時不況以降、「貧困」の二文字を見聞きする機会が増えた。連日ニュースや新聞等が大きく報じ、多くの国民が他人事だと思っていた貧困の危機が、現実に身の回りで認識されるようになってきたからであろう。

連合埼玉では、2009年度の「政策フォーラム」や「教育フォーラム」で、貧困社会が拡大し「子どもの貧困」が加速する中、教育の機会を奪われている子どもたちの状況について共通認識を図り、その課題解決に向けた議論を行ってきたところである。

本事業における「教育支援員事業」は、生活保護世

帯の中学3年生に対する教育支援であり、これは社会問題となっている貧困の連鎖を断ち切るために必要な支援の一つと言える。県社会福祉課の調査によると、2009年度の県内中学卒業者の全日制高校進学率が93.5%であるのに対し、生活保護世帯では67.8%にとどまっている。

生活保護世帯の子どもの学習・学力の実状や生活面で困難をかかえる子どもたちの実状と家庭状況を把握することにより、子どもたちのみならず親との信頼関係も築き、子どもたちに学ぶ意欲を持たせ、親に高校進学的重要性を理解してもらうために教育支援員の果たす役割は本事業の要とも言える。また、子どもたちへの学習指導は県内5大学の学生ボランティアで行い、学習教室は、熊谷・春日部・川口・新座・ふじみ野の5カ所の特養ホームの会議室などの無料提供により実施する。

## ◇福祉と教育、そして支える地域

「教育支援員事業」が、真に子どもたちへの支援となるよう期待する意味で、私なりに考える課題について記述する。

1つは、開設される学習教室が5カ所であること。また、開設される地域についてである。子どもたちが通う学習教室は週5日間で午後6時～9時の時間帯で開設されるが、子どもたちが学習意欲を持ち、根気強く通い続けるためには、条件的に厳しいものがある。県内5カ所では全県をカバーするには広範すぎて、通いに長時間を費やし、交通費についても大きな負担となる子どもたちが発生することが想定できる。また、学生ボランティアについても同様のことが言えるのではないか。特養ホームの利用だけでなく、他の公共施設などの有効活用により教室数を増やすことを検討してほしい。

2つは、「教育支援員事業」を行う団体は、教員OBや大学研究者で構成する子ども・若者の支援を行う団体であり、支援ノウハウや経験を活かして効果的効率的に事業を行うことが期待されるが、貧困の連鎖を断ち切るためには、福祉行政と教育、そして支える地域社会との連携が重要であり、市町村の協力も得ながら全県下の取り組みとしてはどうか。

将来子どもたちが、行政から支援を受ける側ではなく、納税者として、社会保障を支える一員としての人材となり得るよう、様々な可能性を持つ子どもたちが、人生の岐路に立ったときに、親の負担能力によって望まない選択肢を選ばざるを得ないことがないような社会を求めていかなければならない。